シナリオ
1

1　自分らしいスタイルが実現できるまち
地域と趣味としごとが重なる暮らし

○ 大阪や神戸のベッドタウンとして、阪神間の複数の市が毎年、「住みたいまち」ランキングに名を連ねています。
○ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策で、業務のデジタル化が進行し、働く場所や働き方が変化し、「住みたいまち」は住みたいだけではない特色を顕在化しつつあります。
○ 働く場所や働き方が変化することによりコミュニティへの関わり方や自分時間を考える機会になります。

課　　題

●柔軟な働き方に対する勤務環境が未整備である

・企業によってはテレワークの環境整備や移行が不十分である

・副業ができない勤務条件になっている

・勤務形態や勤務時間が固定的であるため、生活スタイルに合わせた柔軟な勤務ができない

・家族の転勤に合わせて転居する必要があり、継続して勤務することが困難になる

・有給休暇を取得しにくい雰囲気で、長時間労働で趣味ややりたいことをする時間がとれない

【みんなの声】
・新型コロナウイルスの影響を受け、現在は会場参加と Web 参加のハイブリッド会議を運用している。Web 会議は遠方からの参加者の移動コストの削減、緊急時にはスピーディーな会議設営が可能である一方で、僅かながらタイムラグが生じたり、空気感が共有しにくかったりと視覚、聴覚のみでやりとりすることに意思疎通の面ではまだまだ不足感があるというデメリットに直面している。

将　来　へ　の　取　組

●テレワーク環境の整備など、業務環境の整備を推進する

・企業は多様な働き方を実現するためのガイドラインを整備する

・企業は在宅勤務に対応する機器の整備等、業務のデジタル化（テレワーク）を推進する

・長時間労働是正のため、企業が ICT 化を進めることで、業務改善を行う

・地域の活動への参加を促すために情報を発信する

・労働市場の流動性が高まり、複業、マルチワーカーが認知されるようになる

【みんなの声】
・（移住関連の話について）リモートワークの普及によって、都市から離れた場所でも仕事ができるという状況になれば、移住のしやすい環境になり、地域との繋がりもできるのではないだろうか。

住みたいまちランキング（関西・総合）の推移　20 位以内にランキングされた阪神間の駅名

2017		2018		2019		2020		2021	
1 位	西宮北口	1 位	西宮北口	1 位	西宮北口	1 位	西宮北口	1 位	西宮北口
2 位	梅田	2 位	梅田	2 位	梅田	2 位	梅田	2 位	梅田
3 位	なんば	3 位	神戸三宮	3 位	神戸三宮	3 位	神戸三宮	3 位	神戸三宮
4 位	夙川	6 位	夙川	5 位	夙川	6 位	夙川	6 位	夙川
11 位	宝塚	12 位	宝塚	11 位	宝塚	13 位	宝塚	12 位	宝塚
12 位	芦屋川	17 位	芦屋川	17 位	芦屋川	17 位	芦屋川	13 位	芦屋川
		20 位	西宮	20 位	西宮	19 位	尼崎		
						20 位	西宮		

出典：リクルート suumo 調査

2030 年頃の中間像

●地域の活動と柔軟な働き方や生活スタイルが実践される

・転勤に伴う転居や退職が必要でなくなる

・複業や地域活動ができる柔軟な働き方や生活スタイルを実現している

・複業の実施により、いずれかが失敗も経済的に困窮しない、セーフティネットが実現している

・本来業務とは違う仕事を通じて、自分がやりたい仕事を実現できるようになっている

・通勤に便利で、大阪や神戸に「通いやすいまち」から本当に「住みやすいまち」と感じるようになっている

【雇用労働関係団体の声】
・2019 年にスタートした国の働き方改革関連制度により、長時間労働の是正や年次有給休暇の取得について、経営者及び労働者の意識は変化し、「ワーク・ライフ・バランス」の実現を目指す動きは確実に高まっている。
・一昔前までは企業に就職する際、将来性が就職の決め手の上位にあったが、今は「ワーク・ライフ・バランス」が上位にくる。

2050 年にめざしたい姿

●地域と趣味としごとが重なる暮らしが実現する

・複業やテレワークが当たり前になり、地域活動や趣味を楽しむ

・家庭、職場以外の趣味や地域活動の場のサードプレイスができ、時間や気持ちにゆとりができる

・集う人がいて、住みたいまちに住み続けることができる

・居住地域と働く地域と二拠点生活（複数拠点生活）が当たり前になっている

【三田市にお住まいの方の声】
・三田市は都市部（大阪、神戸）への2ウエイアクセスでやや都会を匂わせ、また山間部を控え田舎的要素もあり、昨今の在宅勤務に最適な地域である。
【みんなの声】
・普通のサラリーマンや若者が働きながらまちづくりに関われるような活動の仕方を考える必要がある。
【地域おこし活動をする方の声】
・仕事と趣味、やりたいことの両立、重なりが増えてくる。

シナリオ
2

1　自分らしいスタイルが実現できるまち
いつからでも誰でもスタートアップ

○ 阪神地域は兵庫県下でも大学等の高等教育機関が多い地域で、各大学では社会人を対象とする様々な公開講座が実施されています。
○ 長寿化、また雇用形態や就業形態が多様化する時代では、社会人向けの学び直しやスキルアップのために高度で専門的な知識を習得する機会を求める声もあります。
○ 新規分野における起業のスタートアップを支援できるまちを目指します。

課　　題

●社会人がスキルを学び直せる機会が少ない

・学校を卒業、就職したあとに再び学ぶ機会を持つ人が少ない

・実社会で磨いてきた技術や知識について、学びなおしによりブラッシュアップする機会がない

・起業にチャレンジしたいが、失敗時の生活不安や経済的懸念があるため、ハードルが高い

・デジタル技術の進展で「省人化」や「自動化」が進み、高付加価値化への追求が懸案となっている

・阪神地域には多くの大学・大学院があり、専門的知識を習得できる環境にあり、活用される素地が十分にある

将　来　へ　の　取　組

●高度な専門的知識を習得する機会が広がる

・専修学校、大学や大学院などが費用的問題、時間的問題で、社会人が高度で専門的な知識を習得できるようにする

・大学・大学院等は、産業界と連携、接続を強化し、幅広い分野の教育プログラムを構築し、社会人が学び合う機会を拡充する。

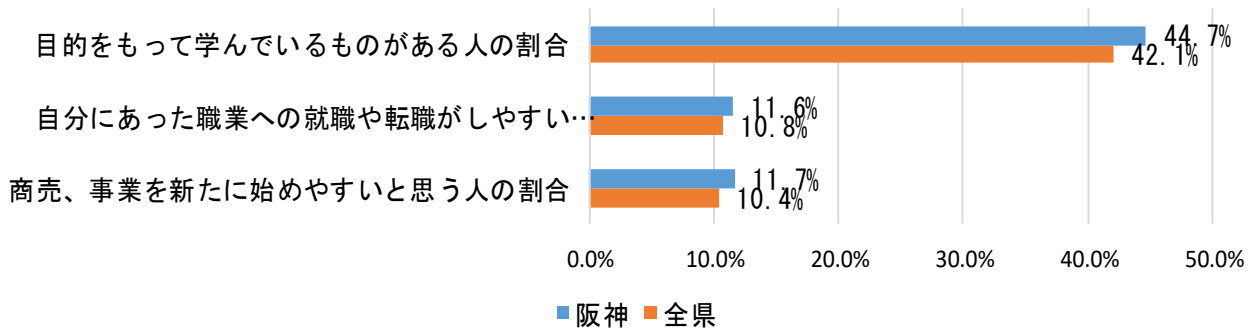
・労働力の高生産性、高付加価値化の追求と実現のため、起業への理解を高める

教育機関の数

	各種学校		大学		短期大学	
	国公立	私立	国公立	私立	国公立	私立
兵 庫 県	－	75	5	31	－	17
阪神地域	－	23	－	10	－	9
全県比率	－	30.7%	－	32.3%	－	52.9%

大学本部（事務局）の所在地により集計
出典：令和２年度学校基本調査。R2.5.1 現在

令和３年度「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査



2030 年頃の中間像

●複業、転職、起業が不利にならない環境になる

・デジタル化の進展やサブスクリプション、シェアリングエコノミーの浸透で起業の初期費用の低廉化が進む

・阪神地域内の大学を中心として、学びなおしを目的とする企業人のスキルアップ講座が普及する

・複業、転職、起業が不利にならない環境に変化している

・卒業→就職→定年という単一的なライフサイクルの見直しになる

・ジョブ型雇用と定年の形骸化により、社会人自身が学び直しを必要とする

【Facebook 管理者の声】
・「ミニマリスト」まではいかないが、かかえこまずシンプルな暮らしがしたい。

2050 年にめざしたい姿

●起業、複業、転職がしやすく、スタートアップを支援まちへ

・スキルアップ講座で身につけた力で複業、起業、転職が自由になっている

・企業と大学が連携し、リカレント教育で自己の能力を磨き直すことが常態化する

・新規分野で起業や複業した人が集い、お互いにスタートアップを支援するまちになる

・スタートアップ企業の関係者が集い、ノウハウを地域に還元する

※スタートアップ
革新的な商品、サービスで社会的な課題に対応したり、新たな市場を開拓する創業浅い企業

【みんなの声】
・一人一人のやりたいことを後押しし合える地域コミュニティ、行政サービス、企業ビジネスなどが有機的につながり合う状態になっている。

【商工団体の声】
・起業・創業を目指す若者が、その技能・経験を身につけるため、市内多種多様な事業者が受け入れる仕組みづくりを模索するなど、自分自身が起業・創業する貴重な人材として市域の中で育っていけるシステムを構築する。

シナリオ
3

1　自分らしいスタイルが実現できるまち
多様な人々が住みやすいまち

○阪神間7市1町は、2021 年4月、結婚相当の関係と認める「パートナーシップ宣誓制度」について性的少数者のカップルら当事者が自治体間で転居した場合、再度の手続きを簡略化する協定を結びました。カップルが宣誓し、受領証を交付されることにより公営住宅の入居や新婚世帯向けの補助などの行政サービスなどが受けられるようになりました。
○年齢、性別、障害の有無、言語、文化等の違いに関わりなく、誰もが自分らしく生きられる社会が、誰にとっても生きやすい社会であると言えます。

課　　題

●担い手不足にもかかわらず、シニア、女性が活用できていない、また、少数派の方への理解が不足している

・高齢者人口の割合が高く、地域活動の担い手が減少している

・定年後のシニアが多数地域にいるが、意欲あるシニアの能力が地域づくりに繋げられていない

・男性の育児参加が進まず、性別役割分担意識が解消していない

・阪神間市町に女性市長が数多くいる一方で、意志決定過程への女性の参画は低い水準にあり、女性リーダーの登用が進まない

・性的マイノリティへの理解が不足している

・障害福祉サービス事業所を利用する障害者の平均月額工賃が全国に比べ低額となっている

【雇用労働関係団体の声】
・労働市場に参入していなかった人（女性、高齢者、障害者）が、自分の能力を活かし、やりがいと、生きがいを持ち、社会貢献する一方で、家族や仲間とのつながりを通じて充実した生き方（ワーク・ライフ・バランス）が浸透した社会が必要である。

将　来　へ　の　取　組

●ライフステージに応じた多様な生き方が選択・実現できる機会をつくる

・シニアが、老人クラブのほかに生きがいや健康づくりなどの場を創出するようになる

・男女ともに仕事と子育てを両立できる環境を整備し、家庭や地域生活で人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会をめざす

・女性が参画しやすい制度づくりに努める

・障害福祉サービス事業所の授産商品の販路拡大や農福連携に取り組むことで障害者にとって就労の場が多様になる

・SOGIE ハラスメントの防止に取り組む必要がある
SO：性的指向、GI：性自認、GE：性表現

【地域コミュニティの方の声】
・地域活動を手伝いたいがどこに行けばいいか分からない人がいる。常設の場にふらっと立ち寄り、コーヒー飲んで話ができると、住民の「やりたい気持ち」や「やるべきこと」を拾うことができる。

○人種や性別といった表面的なものだけではなく、価値観や考え方などに重点をおく「ダイバーシティ」は、アメリカで始まったと言われています。日本でも「ダイバーシティ（多様性）」を受け入れ、多様性を受け入れて活かすという「ダイバーシティ＆インクルージョン」という考え方が浸透してきました。企業にも働き手にもメリットがあるこの考え方は、今後、より多くの企業で取り組みが進み、実践されることが期待されています。

L	女性の同性愛者（レズビアン）
G	男性の同性愛者（ゲイ）
B	同性愛者（バイセクシャル）
T	こころとからだの性の不一致（トランスジェンダー）
Q	こころの性別、恋愛の方向性が定まっていなかったり、その変化している途中であるなどの人（クエスチョニング）
＋	最上記以外にもたくさんの性のあり方があることから、包括的な意味を持たせるもの。

2030 年頃の中間像

●元気なシニアと地域やコミュニティとのマッチングや女性リーダーの登用が進む

・生きがいや職務経験と地域のニーズをマッチングし、コミュニティビジネスやソーシャルビジネスへの取り組みが進む

・女性の管理職比率が向上し、多様な分野でリーダーになる

・SOGIE に対する理解が深まり、LGBTQ＋の方々が暮らしやすい社会になる

・障害者の方が自己実現できる社会になっている

【地域コミュニティの方の声】
・人口減少は税収の低減になり、年間一括交付金での活動には限界がくると思う。そのために各地域がある程度収益性を図り、活動を支え、かつ元気な高齢者にも活動の場を提供できることが必要と考える。危機感を持っている。
「まちづくり委員会」は5年前から事業収入を得る活動を行っており、更に拡大するため、NPO法人化した。

2050 年にめざしたい姿

●シニアや女性が地域や企業で能力を発揮し、LGBTQ＋の方々、障害者の方々が住みやすい社会になっている

・多様な働き方の実現で、LGBTQ＋の方や障害者の方などが、自分らしいスタイルを実現し、公正な処遇が確保されている

・元気なシニアや女性が地域コミュニティのみならず、企業でも能力を発揮している

・社会や企業など、様々な活動団体で女性リーダーが多数活躍している

【阪神地域の学校に通う学生アンケート（「30 年後の阪神地域の理想の姿」について自由入力）】
・誰もが国籍やジェンダーを気にせず、自分を素直にさらけ出せるまち

【子育て支援団体の声】
・女性の起業家、意欲、スキルが高い人が多い。

シナリオ
4

1　自分らしいスタイルが実現できるまち

多文化共生で人々がいきいきと暮らせるまち

○ 阪神地域には産業が盛んなエリアもあり、出稼ぎ労働者を受け入れてきた地域ですが、近年は、技能実習等のため地域で暮らす外国人も増えてきています。
○ しかし、言葉の壁や生活習慣の違いにより、日本で生活するために必要な情報が外国人に伝わらず、地域住民からすると、日本になじもうとはしないという印象になる場合もあります。
○ 異なる文化を理解し、同じ阪神地域住民として、敬意を払う多文化共生社会の実現と誰もがコミュニティでいきいきと暮らせる社会の実現が望まれます。

課　　題

●外国人の増加で、コミュニティが変容している

・東南アジア、南米等世界各国から技能実習等や留学など観光以外の理由で一定期間を日本で暮らす人が増加している

・自分と異なる文化の人との積極的な交流が難しい

・外国人にとって日本語の習得が困難で、子どもの学校や地域とのコミュニケーションが少ない

・外国人にとって地域での生活に必要な情報が伝わらない

【外国人の方々の声】
・日本にいて困ったことはあまりないが、母は日本語がわからないので、全部私が通訳している。

将　来　へ　の　取　組

●地域に暮らす人々が、日本や外国の文化を学び、異文化交流をすすめる

・外国人支援団体と行政が連携し、外国人に参加を促し、日本と外国の双方の文化習慣を学ぶ機会をつくる

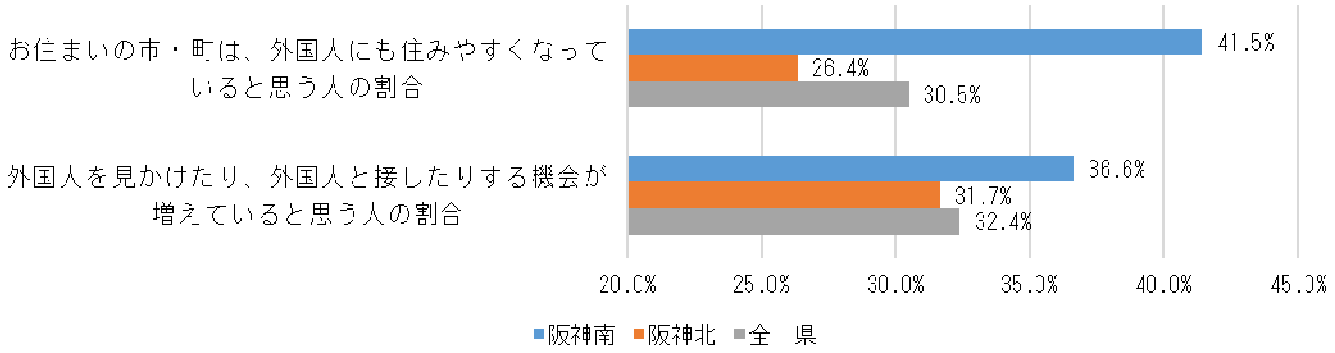
・教育、意識啓発、交流事業によって地域に多くの文化的背景を持つ人々がいるということに対する理解が進む

・日本人県民と外国人県民が相互の生活習慣や文化を知る機会を持てるようにする

・母国語能力が不十分な外国人児童や生徒に母国語教育を実施する

【外国人の方々の声】
・他言語の表示があるが、英語を選択すると、情報量が日本語表示の半分くらいになってしまう。
・日本人はほかの国のことをあまり知らない。アメリカにしか興味が無い。私がスペインのことを話していても、興味がなさそうで寂しい。

令和３年度「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査



2030 年頃の中間像

● 外国人が自然とコミュニティに参画する

・外国人の方々は専ら支援を受ける側ではなく、主体的に地域コミュニティに参画するようになる

・自動翻訳で会話での言語問題はほぼ解決している

・多様な人種の人々が言語の不自由なく暮らすことが自然になっている

・異文化の人々も地域に溶け込んだ生活を送ることができるようになる

【国際交流団体の声】
・外国にルーツのある児童や生徒に対し、日本語学習と、母語や母国文化の継承の両立が必要。

・地域活動において外国人住民の参加を今まで以上に呼びかけることにより、日本人住民にとって次世代の地域活動の担い手が見つかり、外国人住民にとっては自己実現の場となる。

【外国人の方々の声】
・言葉より先に大切なのは、違う世界に飛び込むこと。日本人はシャイだから、飛び込みたいと思ってくれるようになればよい。

2050 年にめざしたい姿

●あらゆる人々がコミュニティで自分らしく生活する

・国籍や人種などに関わらず、それぞれの個性や文化的背景を尊重し、多様性を受け入れることができている

・外国人の方々もコミュニティの一員として活き活きと活動している

・様々なコミュニティにおいて、外国人が参加することが当たり前のこととして受け入れられている

・災害時の避難問題もコミュニティで解決できている

【国際交流団体の声】
・外国人を支援対象として扱うばかりでは外国人の自己肯定感が低下するので、社会参画を促し、自身も社会の構成員の一員であると意識づける必要性がある。

・外国人県民とは対等に接する。まちづくりに関しても、外国人県民の出身地での知見など、学ぶことが多い。外国人県民には、日本人にはないスキルを持っている人が多い。

・まちづくり分野でもチャリティ活動などは外国人県民の方が、日本人よりも上手である。

シナリオ
5

2　自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち

未来まで続く花と緑と里山

○　阪神地域には歴史・文化や生物などの多様性などを保つ里山が数多く残されており、この里山の持続的な保全を図り、北摂地域の活性化につなげるため、「北摂里山博物館（地域まるごとミュージアム）構想」を推進してきました。 しかし、近年少子高齢化により、環境保全活動団体などの担い手の不足、空き家や空き地の増加による環境の悪化などが自然環境保全活動に影響与えています。

○　パッチワーク状で「日本一の里山」とも称される北摂の里山を自然と安らぎの空間として維持するためには、関係人口の増加などにより自然環境や里山の保全に関わる人を増やす必要があります。

課　　題

●里山保全にかかる担い手の不足により、継承が困難になっている

・里山保全の担い手が不足し、空き家や空き地、放置林となった里山が増加している

・里山の再生を行う団体は、その地域の住民でない場合があるため、地域の住民との温度差がある

・武庫川桜回廊、い一な桜街道、夙川、芦屋川などの桜の名所がある

・自然と安らぎ空間のPRが十分にできていない

【生産者の声】
・茶道で使われる炭（菊炭）を使う人が減り、生産者も減少している。萌芽を再生という成長過程で必要な木を切ることや煙が出ることに対して移住者の理解が得られない。

将　来　へ　の　取　組

●里山のファンを獲得、拡大する

・里山保全のため、獣害対策を強化する

・再生された里山で文化的な活動や教育、スポーツが行われ、交流人口の拡大や里山保全の意義を啓発する機会を増やす
　例）森のコンサート
　　ウォーキングイベント
　　自然体験学習
　　スポーツサイクル

・AIやICT活用で監視などの保全活動を省力化する

・空き家や空き地の状況を把握し利用につなげる

・緑の散策路、並木道等を整備し、良好な景観を創出するとともに、多くの人が、清掃や維持管理に携わるしくみをつくる

【ひょうご北摂里山ライド 2021】
自然豊かな里山などの魅力的な景観や地元特産品等を楽しむサイクルイベントを開催し、交流人口の拡大や地域の活性化につなげます。

令和３年度「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査（阪神北県民局独自調査）

あなたは、森林ボランティアなど「北摂の里山」を守る活動や活動を支援する取り組みに参加したいと思いますか。

区分	H29	H30	R1	R2	R3
１）里山活動への意欲	16.40%	12.10%	16.30%	16.00%	20.50%

「北摂の里山」を守る活動に「すでに参加している」、「今後参加したいと思う」と回答した者は、近年 16%前後で推移していが、20.5%に増加した。

2030 年頃の中間像

●ネットワークづくりやコーディネート能力の向上に取り組む

・里山への意識が高まり保全活動が拡がる

・伐採した木々の加工などを収入源として着目する

・「保全」と「再生」が両立する活動に関心が高まり、「行って見て、歩いて、参加し体験する」機会が増える

・ジビエ料理を目当てに観光客が訪れる

・自主的なネットワークづくりや、コーディネート能力の向上に取り組む

・花や緑の周遊散策路が整備され、人が集まるようになる。また、景観を維持しようとする人が増える

2050 年にめざしたい姿

●里山や景観の保全と人々の定住、移住、交流が進む

・テクノロジーの進歩で保全活動が省力化され、里山に住むこと（来ること）へのハードルが下がる

・ジビエ料理や菊炭や原木椎茸など里山の産物の人気が高まりコミュニティビジネスが成り立っている

・さまざまな担い手が育ち、エドヒガン桜、台場クヌギはじめ里山が美しく保存継承されている

・空き家の利用などで二拠点居住が可能になり、都市部から居住者を呼び込み、交流する

・桜・新緑・紅葉など季節を問わず人が訪れる景観・環境が地域で守られ、花（桜など）・緑の回廊として国内外からも高い人気が出ている

※

エドヒガン桜・・別名アズマヒガン、ウバヒガン

台場クヌギ・・炭の材料として10年周期で枝のみを伐採するため、木の下部だけが太く成長し、台場のように見えるクヌギのこと

シナリオ
6

2　自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち
みんなが憩う阪神なぎさ回廊

○　阪神なぎさ回廊は、尼崎、西宮、芦屋の臨海地域の海辺の魅力があふれる遊歩道や親水性の高い護岸などを結ぶ回廊です。
○　また尼崎では、海(自然環境)と都市(人工的環境)が接する「なぎさ」を地域のシンボルとして捉え、尼崎21 世紀の森づくりや尼崎運河再生プロジェクトを地域住民と協働で実施し、自然と都市の再生を図る環境先進都市づくりを進めています。
○人々の暮らしにゆとりと潤いをもたらす水と緑豊かな自然環境を創出し、みなが集うレクリエーションの場を目指します。

課　　題

●なぎさ回廊の知名度が低い

・天然の砂浜の香櫨園浜や御前浜、人口海浜の潮芦屋人口浜、干潟のある甲子園浜など海辺の生物や野鳥を観察できる場所がある

・西宮砲台や今津灯台など海岸線に特有の歴史的建造物がある

・新西宮ヨットハーバーや西宮ボートパークなど、マリンレジャーに親しめる環境がある

・阪神なぎさ回廊を楽しみながら阪神の魅力を感じるウォーキングコースやサイクリングコースが全部で7コースあるが認知度が高くない

- ✓ 武庫川・今津コース(7.5 km)
- ✓ 西宮・香櫨園コース(10.5 km)
- ✓ 尼っこリンリン・ロード(6 km)
- ✓ 武庫川・甲子園コース(10.5 km)
- ✓ 香櫨園・芦屋コース(9.5 km)
- ✓ 尼崎コース(11.4 km)
- ✓ 芦屋コース(6.1 km)

【尼崎の森について考える方々の声】
・尼崎の運河は、きれいが人がいない。オランダの運河では情報がたくさん発信されている。この地域がオランダのようになれば良い。

将　来　へ　の　取　組

●海岸部の親水空間が知られるようにする

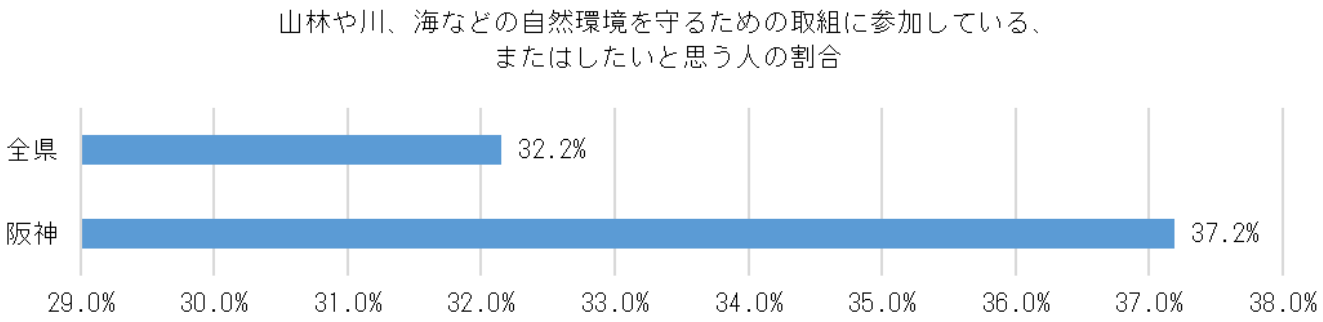
・認知度向上のため、行政や市民団体が情報発信やさまざまな交流イベントをすることによって、海岸部の親水空間を PR する

・サイクリングやウォーキングに必要な整備を進める

・幼少期から森、自然、環境の大切さを学ぶ機会をつくる

【尼崎の森について考える方々の声】
・尼崎をベネチアのような住宅街にするという考え方もある。ゴンドラがあったり、家があったり。30 年くらいのスパンであれば考えることができる。

令和３年度「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査



2030 年頃の中間像

●阪神の地理を活かした魅力のある阪神なぎさ回廊になる

・子どもたちの認知度が向上している

・運河空間の親水空間の活用が進む

・「尼崎 21 世紀の森」ではスポーツを楽しみ、スポーツや食のイベントが行われている

・「尼崎の森中央緑地」ではヨガやミニキャンプ、だれでも楽しめるスポーツが行われている

2050 年にめざしたい姿

●海岸部の親水空間が人々の憩いの場、レクリエーションの場として賑わう

・環境と共存する意識が高まる

・阪神地域の観光名所となり国内外から多くの観光客が訪れる人気スポットになる

・人々が憩い、レクリエーションなどゆったりした時間を楽しめるような場所になる

・「尼崎 21 世紀の森」では、「森と水と人が共生する環境創造のまち」を実現している

【尼崎 21 世紀の森構想について】

尼崎臨海地域は、重化学工業を中心に、日本の産業経済をリードしてきましたが、近代化の過程においてかけがえのない自然を失うとともに、公害の発生など環境面での課題や、近年の産業構造の変化等による工場等の遊休地が発生していました。
このような状況を踏まえて、尼崎臨海地域を魅力と活力あるまちに再生するため、人々の暮らしにゆとりと潤いをもたらす水と緑豊かな自然環境の創出による環境共生型のまちづくりをめざして、兵庫県では「尼崎 21 世紀の森構想」を平成 14 年 3 月に策定しました。
この構想策定後、この構想に賛同する多くの主体が中心となって森づくり（まちづくり）に取り組んだことなどにより、工場等の遊休地は減少し、引き続き貴重な資源である運河や工場の景観など特徴を活かした取組を県民・企業等の参画と協働により進めています。

シナリオ
7

2　自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち

再発見で魅了する「阪神間モダニズム」

○　阪神間モダニズムとは、明治末期から昭和中期にかけて、商都大阪と港町神戸の間に位置する阪神間の鉄道沿線の住宅地開発によって生まれた新たなライフスタイル、芸術文化、価値観などの時代の潮流を指し、独創的な建築物などからその様子をうかがうことができます。
○　文化、芸術、経済などは新しい考え方や文化を柔軟に取り入れる寛容な風土を育みました。
○　時間の経過とともに維持が困難となるため、コーディネーターなど専門的な人材を育成し、阪神間モダニズムの魅力を認識するとともに、デジタル技術を活用して、継承します。

課　　題

●阪神間モダニズムの認知度向上

・阪神間モダニズムについて阪神間ではあまり知られていない

・阪神間モダニズムの作品は、建築・文学・芸術など多岐にわたる（作品例）
建築・・・尼崎市開明庁舎、武庫大橋、関西学院大学、ヨドコウ迎賓館、神戸女学院、甲子園会館
文学・・・谷崎潤一郎「細雪」
音楽・・・貴志康一（バイオリン）
美術・・・小出楢重

・阪神間モダニズムの象徴となる建築物などは管理と維持費用がかかり、継承保存が難しい

許可取得後掲載

白髪一雄《作品Ⅱ》1958 年　油彩・とりの子紙
（提供：兵庫県立美術館所蔵））

将　来　へ　の　取　組

●幅広い人に阪神間モダニズム知ってもらう

・大学や行政、NPO などが、大学の公開講座、大学、美術館、博物館や公共教育機関を活かした学びの場をつくる

・行政などが子どもから大人まで幅広い世代の認知を拡大するため、イベントを行う

・阪神間モダニズム（建築など）を継承し、次世代につなぐ活動を増やす

【文化団体の方の声】
・阪神間モダニズムの影響を受けた風光明媚な場所での文化発表は魅力のひとつ。
京都、奈良等の歴史ある街に近いことから伝統的な文化に対する興味は人々の中に宿っている部分もあると思う。

【文化団体の方の声】
・阪神地域は「阪神間モダニズム」に見られるように、古くから文化芸術を大切にしてきた風土と歴史があり、多くの芸術家が在住、活躍している。

武庫川女子大学甲子園会館
（旧　甲子園ホテル）

武庫川に架かる武庫大橋

日本初の都市間電気鉄道として
開業した阪神電鉄

2030 年頃の中間像

●阪神間モダニズムに関する関心が深まる

・大学や美術館などで学んだ人たちからプロデューサーやコーディネーターなど専門的な人材が育つ

・研究プロジェクトの成果を活かして VR（仮想現実）、AR（拡張現実）、MR（複合現実）などへの住民参加の社会実験を行う

・阪神間モダニズムを知り、住民や関わる人が地域に愛着を持っている

2050 年にめざしたい姿

●阪神間モダニズムの発展と継承

・VR、AR、MRなども活かして保存継承され活用されている

・保存と継承が実現し、地域づくりに活かされている

・新しい考え方、文化や AI（人工知能）などの技術を受け入れて発展させる風土を継承する

甲子園住宅経営地鳥瞰図/昭和 5 年（1930）
甲子園エリア、娯楽・スポーツ施設、学校、病院などが充実したガーデンシティの先駆けとして開発された
（提供：阪神電気鉄道株式会社（社史より））

許可取得後掲載

シナリオ
8

2　自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち

生涯の学びと次世代につなぐ阪神文化

○「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査では、住んでいる地域のことに関心がある人の割合が、県内の他地域と比べ高い割合となっています。
○　阪神地域は特色のある博物館、美術館やホール、スポーツ施設もあり、地域と一体となった芸術活動や、スポーツ活動が展開されています。地域には公民館も多数あり、地域住民のつどいの場を形成するだけでなく、地域のことを学ぶ場としても提供されています。
○　専門的な教育を受けた地域の大人がこれら身近にある施設で、生涯学習の機会を得るとともに次代の子どもたちにも継いでいきます。

課　　題

●伝統や継承文化についての認知が希薄

・子どもは社会との接点が限られており、体験学習やイベントなど多世代交流の機会が少ない

・地元の歴史文化をはじめ、地域の資源を知る機会が少ない

・大学や地域の公民館や施設で多数の学習講座があるが、いろいろな世代の人が学び直しできていない

・学び直しが趣味の範疇に収まらず、学びから地域活動につながる人材育成が必要である

【みんなの声】
・子どものころの体験は地域への愛着にもつながるため、若年層を引き込んで、歴史文化をはじめ地域のことを知る機会が必要である。

・オンライン化が進み、デジタル社会になるからこそ、情操教育に力を入れてほしい。無精人間を生み出さないためにもアナログな部分は大切である。

将　来　へ　の　取　組

●学びの機会をつくり、専門的な人材を育てる

・乳幼児期からの生活や小中学校の授業や地域のイベントで地元文化に触れる機会を増やす

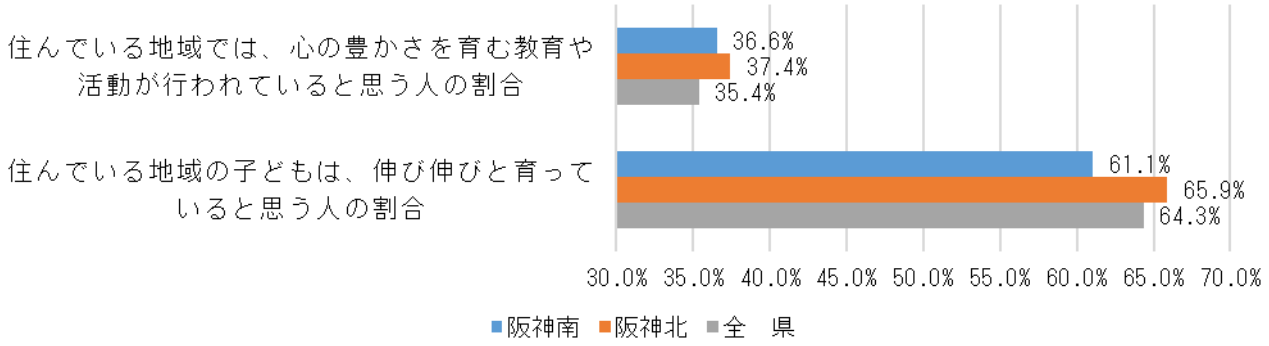
・尼崎城、酒蔵産業、食品産業、西宮えびす、上島鬼貫、九鬼家など、地域の歴史について、各地で勉強会を行う

・学校、大学が地域と一緒にワークショップを開催し、ファシリテーターなどを育成する

【学生起業家の声】
・中学生や高校生でも「地域でこんなことができる」「何かやってみよう」「起業してもいい」と思える機会や、学びのためであれば何をしてもいいという場所があればいい。自分でプロジェクトをやってみる機会を多く与える事が大切だと思う。

【みんなの声】
・歴史文化を後世に上手く伝えていくのが市民みんなの願いだと思う。それを伝えていくシステム（教育）を設けていかないといけないと思う。

令和３年度「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査



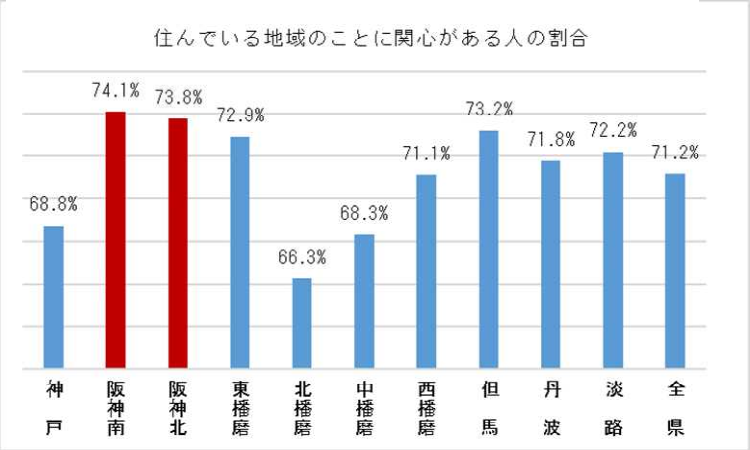
2030 年頃の中間像

●地域を知ることや興味のあることの学びを深めることに関心が高まる。

・小中学校で、地元の歴史や文化への認知度が向上する

・子どもをはじめ、誰もが専門家による地元を学び知る機会・講座が充実し関心や意欲が高まる

令和３年度「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査



2050 年にめざしたい姿

●学び得たことを周りの人たちに伝え、地域への理解を深める

・原体験を多く得た子どもが地元に愛着を持ち、積極的に地域のことを学ぶ人が増え、次世代へながる

・誰もが生涯学習講座のリーダー、講師になって伝え合い、語り合う

・学び得たことを観光資源につなげ、交流人口が増えている

【みんなの声】
・「やりたい気持ち」や「やるべきこと」を拾い上げる場所があれば、面白い発想がうまれると思う。

【阪神地域オープンミュージアム無料開放ＤＡＹ】
美術館・博物館が同時期に無料開放することにより、文化資源を体感する機会を提供するとともに、交流の拡大及び地域の魅力を発信します。

シナリオ
9

2　自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち
地域で循環するエネルギー

○ 近年、気候変動に伴う風水害等が増加し、大規模停電等ライフラインの寸断が多発しています。将来的、気候変動による影響がさらに拡大する可能性が高く、災害の多発が予想されます。災害に対応するためにも強靭で持続可能な地域づくりにつなげていく視点も重要です。
○ 北摂里山の木質バイオマス資源、ソーラーシェアリングなど阪神地域の資源を活用した再生可能エネルギーの地産地消により、エネルギーを地域内で循環させることで経済循環、新たな雇用を創出し、自立した地域づくりにつなげることが必要です。

課　　題

●脱炭素社会に向けての意識の高まり

・省エネ意識や CO2排出の少ないライフスタイル、脱炭素社会（プラスチックごみの削減等）への転換が進んでいる

・ヒートアイランド現象により、阪神南地域の都市部は、阪神地域の他地域に比べて気温が高い

・気候変動の影響による局地的な豪雨、台風による風水害（高潮等）多発している

【みんなの声】
・国道 43 号線の排気ガスが気になっている。
・公園がもっと増えると緑も増えやすいのではないか。
・クリーン＆デジタルが進めばもっと住みやすいまちになる
・低炭素化を進めるため、水素やアンモニアを使ったエンジンを開発している。もっと多くの人に脱炭素について関心を持って欲しい。

将　来　へ　の　取　組

●太陽光発電、小水力発電、バイオマス発電など再生可能エネルギーの導入拡大

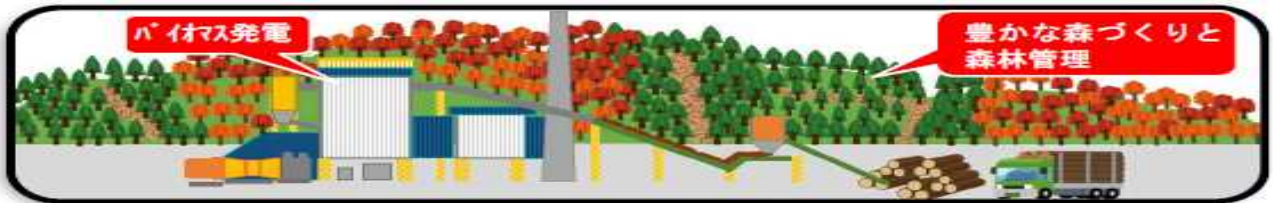
・ため池を有効活用した太陽光発電の導入に向けた研究を推進する

・地域団体が小水力発電の事業化に向けて調査や勉強会を実施する

・再生可能エネルギーを利用した未利用間伐材や広葉樹など木質バイオマス資源を有効利用する

《現在の活動例》
・再生可能エネルギー導入に関するワークショップを開催
・CO2吸収源としての森林・里山保全のため、小学生を対象とした里山体験学習を実施
・先導的な取組事例の紹介

【みんなの声】
・阪神地域が脱炭素の先進地として有名になってほしい
・森の間伐資材を有効利用したい
・環境に優しく、阪神地域らしい緑、景色があるまちをめざしたい



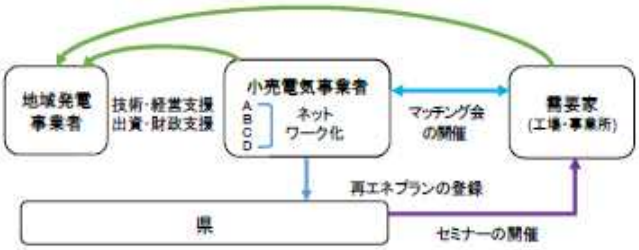
2030 年頃の中間像

●地域循環共生圏のモデル事業の実施

・農業生産と発電を同時に行うソーラーシェアリングが普及し始めている

・小水力発電や小規模バイオマス（木質バイオマス）ボイラーにより生じる熱を有効利用した地域循環共生圏のモデル事業が実施されている

・県内の再生可能エネルギー由来の電力を県内事業者へ提供する「ひょうご版再エネ 100」が展開されている



ひょうご版再エネ100

2050 年にめざしたい姿

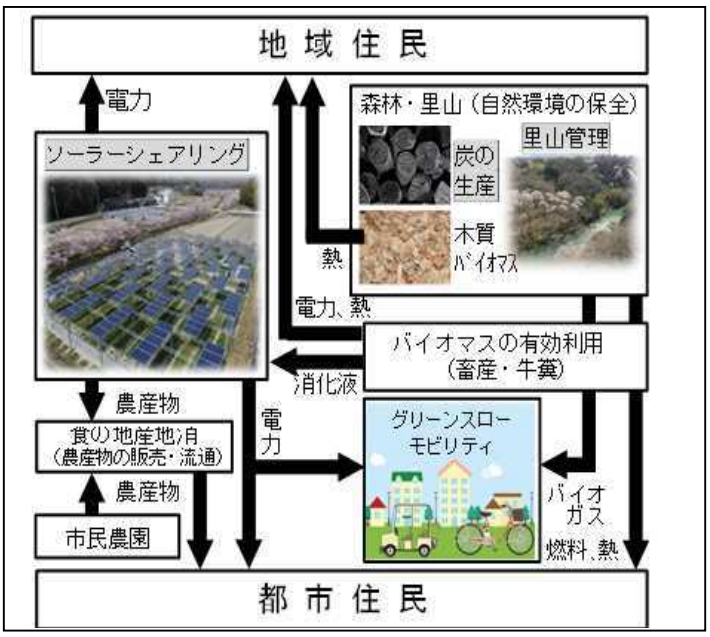
●エネルギーを地域内で循環し、脱炭素が進む

・エネルギーを地域内で自給することで地域経済の循環を生み出し、地域が自立している

・阪神地域の自然的要因や市街地の人工排熱、風通し等の人為的要因を含めた特性を把握したまちづくりが進められている

・低炭素なバス、シェアリングの車、小型モビリティなど、環境にやさしく多様な移動手段が整っている

地域循環共生圏のイメージ



シナリオ
10

3　みんながつながるやさしいまち
世代を超えてつながるまち

○ かつて西宮市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町において開発されたニュータウンは、年々高齢化が進み、農村周辺部とともに、若い世代の転出や公共交通機関問題などの対応が必要になっています。
○ シェアリングカー、小型モビリティの発達や自動運転の実現で、世代に関係なく住むことができ、また若い世代と経験豊富な高齢者世代が交流し、若い世代の子育てのサポートやアドバイスで不安が解消する、世代を超えてつながるまちを目指します。

課　　題

●高齢化にともない、オールドニュータウン化が進んでいる

・成熟したニュータウンからは若者層の流出が続き、高齢化が進んでいる

・公共交通機関の路線や便数の減少など、エリア内外を結ぶ公共交通機関の確保が困難になりつつある

・発達している公共交通機関と利用者低迷による維持困難な地域が存在し、移動手段の格差が発生。高齢者や障害者の買物や通勤が不便な地域がある

・高齢化で農産物を遠くまで運べない生産者と商品を販売する農産物直売所と乗客を路線バスで運搬する「貨客混載」を行う地域があるなど、移動手段の確保に取り組む地域がある

【運輸業者の声】
・高齢者の社会参画、労働参加の必要性が高まっているため、移動手段の確保が課題である。
・ラストマイル問題（バス停から自宅までの移動手段がないこと）の発生や学校統廃合に伴う通学手段の確保も課題である

将　来　へ　の　取　組

●転出転入の促進、まちの若返りをすすめる

・住んでいる人々の新陳代謝が促進されるような取組を進める
※買い換えなどの引っ越しを促進させる
※空き家の状況を把握し利用につなげる

・子育て世代が住みたくなるような、情報交換の“場”を充実させる

・豊かな自然が身近にあるため、周辺エリアも含めた魅力向上に取り組む

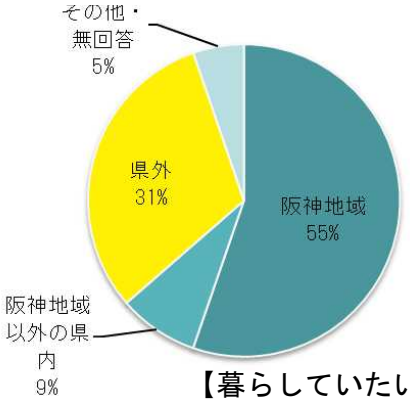
・行政は若者世代やファミリー層の住宅の確保への助成に積極的に支援する

・地域住民の高齢化と公共交通機関の減便への対応のため、コミュニティバスなどの運行を検討する

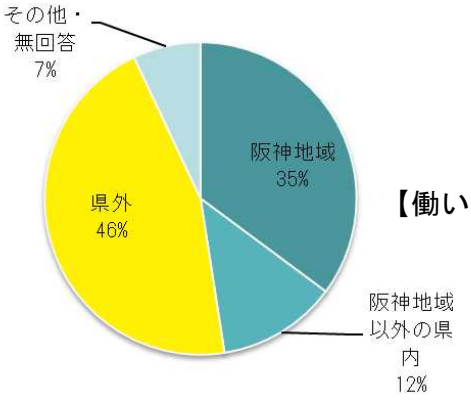
【みんなの声】
・ニュータウンで高齢化が進んでいる。このため、子どもを巻き込んで「ふるさとづくり」を行っている。しかしながら、ニュータウンには伝統行事がないことから、人と人のつながりを維持していくことが難しい。

阪神地域管内の高校生と大学生へのアンケート調査

30 年後、暮らしていたい場所、働いていたい場所はどこですか。



【暮らしていたい場所】



【働いていたい場所】

2030 年頃の中間像

●まちの活性化と、周辺地域の魅力向上

・落ち着いた住環境で子育てをしようとする若い世帯が増えている

・先輩世代から育児のアドバイスをもらえる“場”ができ、地域の交流が深まる

・ニュータウンの周辺部でグランピングなどの新しい郊外型レジャーの人気が高まっている

・Maas の機能を活用したデマンド交通の実証実験や自動運転の公道走行実験など次世代モビリティ導入に向けた取組みが行われている

※MaaS（Mobility as a Service：通称マース）とは、交通手段をまとめてより便利な移動を実現する仕組み

【運輸事業者の声】
・MM（モビリティマネジメント）活動として、高齢者、学童を対象に安全教室を開催し、バスの死角などを知つてもらい事故防止に努め、あわせて利用促進活動も行い将来の公共交通利用者の創出に繋げている。

2050 年にめざしたい姿

●ゆとりがある、成長できる環境で誰もが望んだくらしができる

〇時間や気持ちにゆとりができる
・賃貸住宅も含めて移住しやすい環境が整う
・地域で気軽に集まれる場所やコミュニティができている
・子どもたちと高齢者の交流が生まれている
・シングルでも参加できるコミュニティなど、様々な住民がコミュニティに参加している

〇成長できる環境
・住民自らができるサービスを提供するなど住民同士の交流が盛んになり、新たなビジネスも生まれている

〇充実した生き方の浸透
・都市と自然がどちらも身近である環境を活かして、様々なレジャーを楽しんでいる

〇移動手段への不安の解消
・各地に移動拠点の設置や幅広い世代を対象にしたモビリティ、自動運転の普及が進み、高齢者、障害者が快適に移動できる

シナリオ
11

3　みんながつながるやさしいまち

自分にあった“つながり”に参加できるまち

○　現代社会では、個々人のライフスタイルの変化や多様化、高齢者の一人暮らしの増加により、個々人間の触れ合いの機会や関係が希薄になっています。
○　年齢や性別、障がいなどに関係なく声をかけあい、つながりが構築され、助けがほしい人と助けたい人がつながることで地域への愛着が深まることを目指します。

課　　題

●つながりが希薄になっている

・既存のコミュニティに参加することに高いハードルを感じ、気軽に参加できるコミュニティがない

・学校や会社以外でつながりの作り方がわからず、人と人とのつながりが希薄になっている

・コミュニティを探すツールが分からず、探すのが大変である

・子どもの数が減少し、独居老人の増加など単身者が増加している

・コロナ禍で人に会う機会が減っている

【地域デザインを考えるワークショップでの意見】
・現実の家族には相談できない悩みを相談できるような憩いの場所を作ったり、特性を登録し、その情報からAIが参加者の興味関心や専門分野などを元にマッチングを行うことで、解決を図る。

将　来　へ　の　取　組

●助けがほしい人と助けたい人をつなげる仕組みをつくる

・手軽に身近に参加できるツールを作ったり、認識する

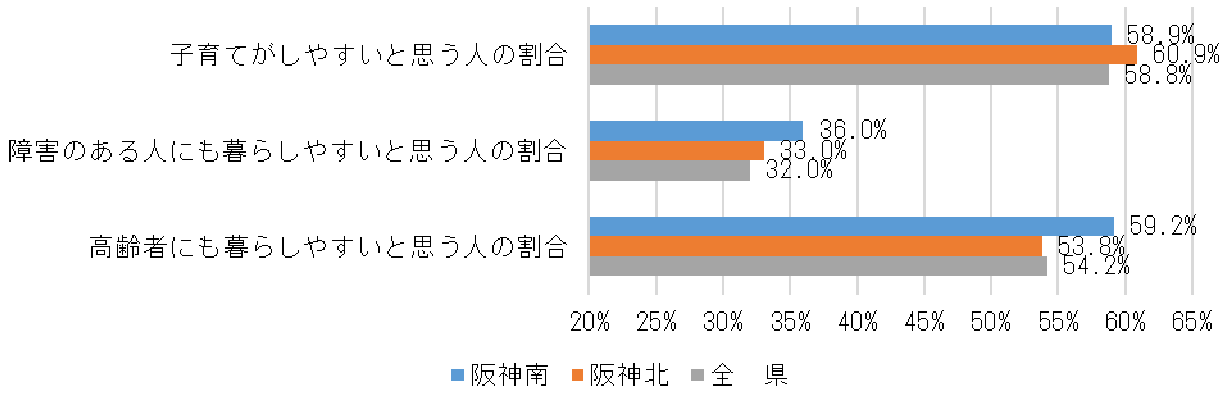
マッチングアプリ・・年齢、性別、恋愛、趣味、嗜好以外でもつながれるアプリ

お助けシステム
食事の用意をする時間がない人と料理を作りすぎた人、保育所送迎サポートと保育所送迎支援

家族的コミュニティ
年齢、性別がバラバラな人間で集まる
数日間家族としてシェアハウスで生活する
養子やペットの紹介を行う

【阪神地域未来フォーラム参加者の声】
・2050　年の未来を描いた未来像：はじめましてがなくて、みんなが助け合え、笑顔で楽しくいきる未来をつくる。
・パッと会った人同士（観光客も含む）であいさつしあえて、尊重しあえる未来をつくる

令和３年度「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査



2030 年頃の中間像

●AIの活用による実際と異なるコミュニティでの繋がりが可能になる

・日常的なマッチングアプリの利用が見られ、コミュニティが形成される

・年齢、障害の有無にかかわらず、つながりが構築され、助けがほしい人と助けたい人がつながる。自由に生活することができる

【地域デザイン考えるワークショップでの意見】
・IT活用で気軽に情報交換や相談ができるバーチャル家族のしくみや、困っている人と地域をつなぐマッチングアプリで支え合うしくみがあれば、共通の趣味や同じ目標を持った、実際とは異なるコミュニティに身を置くことで個々の成長につながる可能性がある。

2050 年にめざしたい姿

●自分にあった“つながり”に参加できるまちを実現する

〇人と人とがつながるまち「シェアタウン」
・年齢、性別、趣味、嗜好以外でもつながれる
・オンライン、地理的に限定されない
（趣味嗜好共通番地）
〇〇番地は阪神タイガースファンが住むまち
〇〇アパートの住人は毎週宝塚歌劇を鑑賞
（優待制度）
まちぐるみで投資を行い、配当金を地域整備に充当
（家族的コミュニティ）
年齢、性別が違う人同士でシェアハウスをあっせんする
養子やペットなどの紹介を行う

・オンライン、オフラインを問わず、意思疎通が可能となり、地域で安否が確認できるようになると、障害者、高齢者・認知症の方も住みやすいユニバーサル社会へとつながっていく
・人々が地域に愛着を持ち、住み続けたいと思うようになる。

【県民からの意見】
・今後どんなにIT技術が発達しても、大事な価値は、「人間の温かみ」だと思う。

シナリオ
12

3　みんながつながるやさしいまち
みんなで進める防災・減災

○ 阪神地域は兵庫県の中でも都市化が高度に進んだ地域ですが、武庫川などの河川や沿岸部に海抜ゼロメートル地帯があるなど、一度災害が発生すると甚大な被害が発生するおそれのある地域でもあります。
○ これらの災害に対する備えは、長年にわたって取り組んできましたが、近年、県下の様々な地域が災害に見舞われており、阪神地域においても平成 30 年台風第 21 号による高潮災害が発生しました。
○ ハード対策は進められていますが、住民は想定を上回る事態に備える必要があります。

課　　題

●甚大な災害が発生するリスクが高まっている

・今後30年以内に70～80%の確率で南海トラフ巨大地震が発生すると予測されており、津波被害の発生が懸念されている

・台風に伴う大雨や暴風、局地的に集中する大雨により、河川氾濫や土砂災害、高潮被害の危機が高まっている

・兵庫県は津波対策、高潮対策のため防潮堤の整備を進めている

・兵庫県は武庫川水系や猪名川水系の治水対策を進めている

・ハザードマップにより、居住地や勤務地エリアの危険箇所を常日頃から把握する必要がある

・外国人居住者に災害情報や避難情報を確実に知らせることが必要である

将　来　へ　の　取　組

●防災訓練、要援護者への個別支援計画などのソフト対策を住民と一体となって充実させる

・災害が他人事にならないよう、保育施設、小中学校での防災教育を進める

・子どもや外国人、要支援避難者を支援する人たちが、HUG などで避難行動について学ぶ

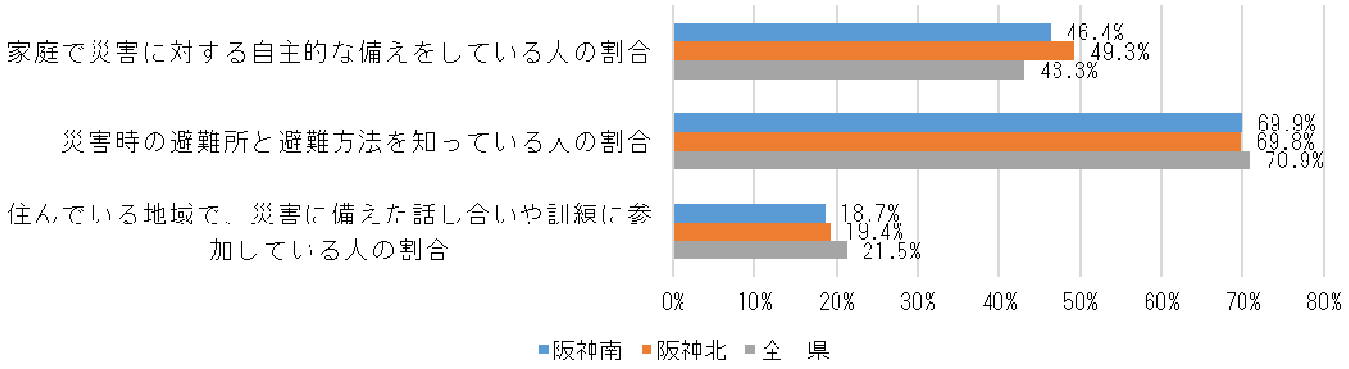
・災害時に要援護者の特徴に応じた支援内容や避難場所等を定めた個別支援計画の作成など、避難行動支援体制の整備を促進する

・災害時に要援護者が着実に避難行動ができるよう、訓練を進める必要がある

・外国人居住者も避難訓練に参加できるよう、外国人を支援する団体と連携する

【防災士の声】
・「一人は万人のために、万人は一人のために」、住民の自発的活動を増やす取り組みや、将来の担い手である児童、生徒、学生との連携が必要である。（小学校などで企画しているコミュニティスクールなど）

令和３年度「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査



2030 年頃の中間像

●災害に対するハード対策、ソフト対策が整ってくる

・各地域における災害リスクに応じ、ハード対策だけでなくソフト対策も含めた総合的な対策が進む

・個別支援計画に基づいた災害弱者を地域で助けて避難できるしくみができている

・日頃から、災害弱者の方、小さな子どものいる家族、外国人居住者などへの目配り、気配りができる“おせっかいがおせっかいでない”コミュニティができている

【防災士の声】
・市民一人ひとりに対して、危機意識を持ってもらえるような啓発活動を行い、災害弱者自身が行動できるような支援を増やす。その対応として交流が増える施策が極めて大事である。

HUG イメージ写真

2050 年にめざしたい姿

●誰一人取り残さない避難行動ができる

・ハード整備で一定規模の災害を防ぐとともに、コミュニティでの助け合い避難ができて災害発生時にも人命が守られている

【留学生を受入れている方や防災士の声】

・ベトナムの留学生、実習生を２年前から受け入れ、地域の防災活動に参加している。

・人間らしい生活なしでは、充実した生活はできない。地域コミュニティの交流を増やす策を構築し、お互い様の社会を作ることが重要で、災害対応を考えれば、被災が想定される地域との支援・連携に目を向ける事も必要である。

【阪神地域の学校に通う学生アンケート（「30 年後の阪神地域の理想の姿」について自由入力）】
・南海トラフの対策をし、乗り越えて新たな世代との繋がりを強め、にぎわいのある地域

シナリオ
13

3　みんながつながるやさしいまち
いきいき健康１００年人生

○ 誰もが住み慣れた地域で、自分らしく安心して暮らせる社会の実現を望んでいます。
○ しかし、少子高齢化により、団塊の世代すべてが 2025 年に 75 歳以上の後期高齢者になる社会が迫っています。
○ 医療、介護、予防の仕組みを構築し、高齢者の持てる力を発揮しながら生活を継続できる支援や見守りで、いきいき健康 100 年人生を送ります。

課　　題

●高齢化の進化に伴う認知症に対する理解やフレイルへの理解が必要性である

・高齢者人口が増加し、全人口に占める割合が高くなっている

・高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自立した日常生活が送れるよう、「地域包括ケアシステム」の構築に向けた取り組みを推進する方策が展開されつつある
（在宅サービスの内容や量の充実）

・フレイル（加齢による心身の虚弱化）予防の取組の着手段階にある

・体力や年齢に応じて気軽に楽しむことができる生涯スポーツを普及させる必要がある

将　来　へ　の　取　組

●認知症対策やフレイル予防の取組の推進する

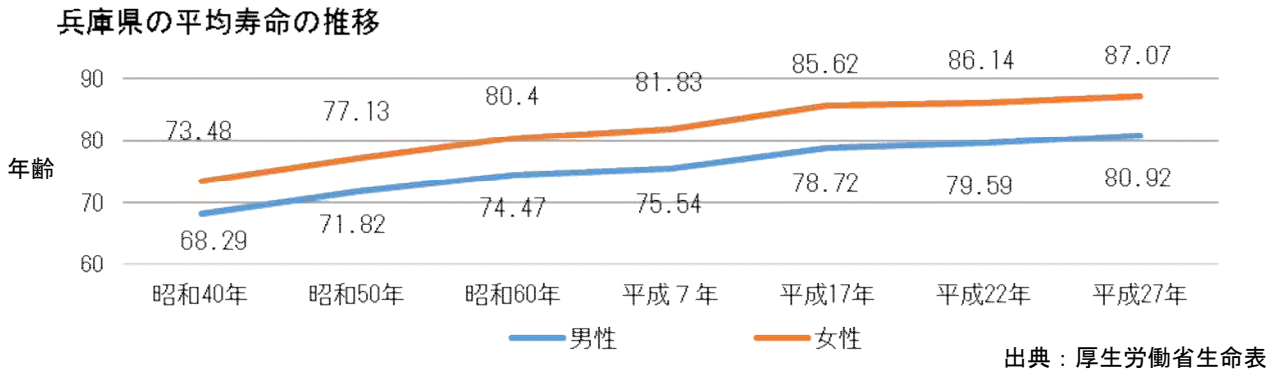
・認知症カフェの整備や活動を一層進める。

・認知症予防体操（コグニサイズ）の普及などを進める

・住民運営の「通いの場」づくりを一層進め、認知症の疑いのある人の早期発見に向けた取組みを推進する

・地域の人から孤立することのないよう、認知症の人や家族が医療や介護の専門職に相談でき、安心して過ごせる認知症カフェが運営されている

・イベントなどを行い、生涯スポーツの普及に努める



出典：厚生労働省生命表

2030 年頃の中間像

●医療と介護の連携の強化される

・住民運営の「通いの場」、「サロン」等に参加することによりリハビリテーション職や管理栄養士、歯科衛生士などと連携し、運動・栄養、口腔の観点も含めて高齢者の状況を確認し、体制が整う

・パワーアシストスーツなど、活動を支える技術開発が進み、高齢者の労働を補助する

・視力・聴力・記憶力を高める先端デバイスが普及し、高齢者の活動領域が狭くならないようになっている

・QOL（生活の質）の向上を重要視するようになる

・必要な人への受診勧奨、受診結果の把握等を行い、介護サービスにつなげる取組を進める

・Maas の機能を活用したデマンド交通の実証実験や自動運転の公道走行実験など次世代モビリティ導入に向けた取組みが行われている

2050 年にめざしたい姿

●健康寿命の延伸化と自分らしい暮らしの実現する

・誰もが生涯現役で趣味、仕事、地域活動などいきいきと取り組んでいる

・検診体制や健康づくり活動の充実で健康が守られている

・ICT 活用の遠隔診断・医療が導入されている

・元気な高齢者が増加し、QOL が向上する

・認知症に対して理解が得られるようになり、支えあう

シナリオ
14

4　にぎわいのあるまち

アートによるクリエイティブな環境づくり

○ 明治時代以降、阪神間に居を構えた大阪の裕福な商人や実業家たちが、コミュニティの形成や私学を創設し、阪神間の吸引力を高めていった結果、著名な作家や芸術家が活動し、この地域の文化が発展しました。

○ クラッシックの音楽コンクールから薪能、オペラ、市民による手作りの音楽イベントや美術的なイベントなどが繰り広げられ、市民を魅了します。

課　　題

●多彩な特色あるアートイベント、舞台芸術が開催されているが、認知度が低い

・誰もが身近に芸術に親しむ機会を提供するため、多彩な特色あるアートイベント、舞台芸術が開催されている
- ✓ 尼ソニック（尼崎市）
- ✓ アシオト（芦屋市）
- ✓ 「鳴く虫と郷町」、伊丹オトラク（伊丹市）
- ✓ 宝塚音楽回廊（宝塚市）
- ✓ 川西音楽祭（川西市）
- ✓ ONE　MUSIC　CAMP（三田市）
- ✓ 川西まちなか美術館
- ✓ のせでんアートライン（川西市）

など多数

・多種多様な特色あるホールや美術館、博物館が地域内には数多くある

・阪神地域の人々にも、文化資源やアートイベントがあまり知られていない

将　来　へ　の　取　組

●アートイベントを開催できる土壌づくりが必要である

・阪神地域の人々にも、文化資源やアートイベントが認知されるようになる

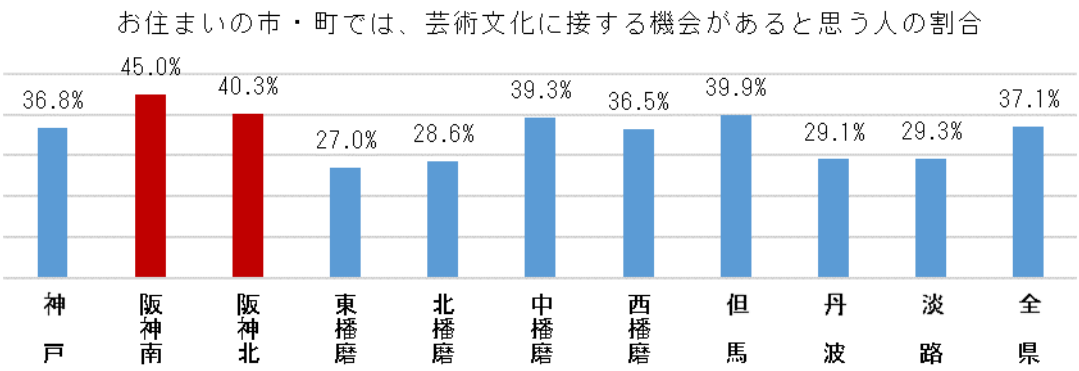
・イベントを開催する際に必要な制度や手続き等を若者に伝え、若者が活躍できる場所を作る必要がある。

・地域の芸術活動を知ってもらうため、地域とつながる音楽会、茶会や写真展、絵画展などを開催する

・芸術の“場”として、地域の公民館や空き店舗、廃校施設、空き教室、公共施設のロビー、駅前広場の活用など身近な場所での開催や演奏動画配信等 ICT を活用した活動の“場”づくりにも取り組む

【まちづくり団体の声】
・イベントに参加する人が「ジブンゴト」として考え、「一緒に」楽しめるよう意識して取り組みたい。・関わる人と一緒に意見を交わしながら、楽しく事業を盛り上げるように工夫している。
・イベント開催時は、できない人が頑張るより、できる人が少し手伝うような体制、義務ではなく、少しの時間でも気軽に関わることができるよう、広くゆるくつながっていきたい。

令和３年度「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査



2030 年頃の中間像

●アートやアートイベントの裾野を広げる

・音楽、舞台芸術、美術などの様々なイベントが日常的に催され、多くの人が参加して賑わい、交流している

・地域間でのアートイベントの連携を強化するとともに、関係人口が生まれるようになる

・文化活動のために地域外からも活動家が転入して来る

【みんなの声】
・イベントに参加する人は、地域づくりに参画しに来るのではなく、自分自身が楽しみに来る人ばかりである。そういう地域でありたい。

【文化団体の声】
・長年、培ってきた活動を継続するため、定期的に発表の場を設けているが、今後は小コミュニティとの交流を図っていきたい。

2050 年にめざしたい姿

●アートの魅力でクリエーターが集まり起業したり、多くの人を引き寄せる

・身の回りに“芸術”があり、気軽に取り組める環境になっている

・アートの魅力でクリエーターが集まり起業している

・クリエーターが地域の人々とアートの魅力を活かしたまちづくりをしている

【文化団体の声】
・事業に出演するアーティストと参加者並びに参加者同士が交流できるような事業を実施することで、芸術文化を通じたつながりや、さらなる活動の広がりを生み出す場を提供している。

・バーチャルなアートイベントが可能になれば、リアルなアートイベントは、美や芸術の鑑賞だけでなく、リアルな熱気を感じることへと価値がシフトする。

シナリオ
15

4　にぎわいのあるまち
訪れたい訪れやすい阪神地域ツーリズム

○ 阪神地域にはのんびり過ごせる自然豊かな田舎町や発展した街、海沿いなど多くの魅力があり、多くの人にとって訪れたい街になる魅力があります。
○ しかし、阪神地域の自然、絶景スポット、伝統文化の知名度は低く、触れる機会も多くありません。
○ 阪神地域の魅力をより発展させ、インバウンド客の需要も増加し、また地域の人が愛着を持ち、自然と多くの人が訪れる阪神地域を目指します。

課　　題

●阪神地域の魅力を認識する

・『伊丹諸白』『灘の生一本』などの日本遺産、多彩な公園、西宮えびす、阪神間モダニズムなど歴史・伝統的な資源（人、モノ、文化、自然、景観など）が多彩にあるが、ストーリーとしてアピールできておらず認知、話題不足である

・国内旅行の需要が高く、日本遺産や歴史・伝統資源に関する探究意欲が高いが、デジタル情報からの情報収集に止まっている

【運輸関係団体の声】
・（阪神北地域は）日本への玄関口である関西国際空港、大阪港から大阪−京都を訪問する俗に言う“黄金ルート”から外れた印象がある。

【まちづくり団体の声】
・魅力の見せ方が重要。人の温かさや昔のものを大事にする「おしゃれ田舎」に魅力を感じる。

【観光関係団体の声】
・マイクロツーリズムでは、地域資源の磨きなおしが大切になると感じた。従来、「日本全国から」「世界から」「国際的」などがキーワードであったが、これからは県内の人に来てもらい、地域の魅力を知ってもらうというのが必要となる。

将　来　へ　の　取　組

●住んでいる人だけでなく、関わりのある方や興味のある方に知ってもらう

・観光業者や行政などが阪神地域を代表する観光スポット等で積極的にイベントを開催し、地域ブランドの魅力をアピールする

・阪神近郊地域の住民に、周遊情報や地域の情報などを発信し、マイクロツーリズム(※)を推進する

・国内の方も海外の方も楽しめる周遊コースを設定する

・甲子園や歌劇などすでに知られているものでも、地域資源を磨き直し、地域資源ごとのつながりをアピールし、インバウンドツアーを誘客する

【学生起業家の声】
・「宿泊してでもいきたい」という資源がない。
・日帰り者をターゲットに空き家や古民家を活用する必要があるが、市街地開発の規制が厳しすぎる

【商工団体の声】
・今後は、観光その他により交流人口を増加させることで、事業者の持続的発展に繋げていく取組みが重要になると感じている。

※マイクロツーリズム
　自宅から1～2時間県内の近隣への宿泊観光や日帰り観光

阪神地域主要観光地への入込客数　　（単位：千人）

阪神南地域				阪神北地域			
市町名	観光地名	入込客数	対前年比	市町名	観光地名	入込客数	対前年比
西宮市	阪神甲子園球場	3,836	-12.6%	宝塚市	清荒神清澄寺	3,020	-4.4%
西宮市	西宮神社	2,283	5.1%	宝塚市	宝塚北サービスエリア	2,625	-15.5%
尼崎市	県立尼崎の森中央緑地	636	6.6%	宝塚市	中山寺	1,274	-1.8%
西宮市	門戸厄神　東光寺	615	6.5%	宝塚市	宝塚大劇場	1,140	-10.9%
西宮市	廣田神社	565	46.4%	三田市	有馬富士公園	774	3.8%
尼崎市	尼崎市総合文化センター	348	-4.5%	宝塚市	あいあいパーク	692	-3.3%
尼崎市	尼崎城	211	711.7%	伊丹市	伊丹スカイパーク	682	1.2%
尼崎市	貴布禰神社	185	5.1%	猪名川町	道の駅いながわ	628	3.0%

令和元年度　兵庫県観光客動態調査

2030年頃の中間像

●阪神地域の魅力が浸透する

・阪神地域の特色を活かした企業やイベントが増える

・ブランド力が高まり、商品や観光地が有名になる

・関西の人が日常的に遊び、憩うマイクロツーリズムが普及する

・伊丹空港、神戸空港、関西国際空港の三空港を一体活用する

・Mass の機能を活用し、観光地をスムーズに移動でき、分析により観光地を分散することができる

【運輸関係団体の声】
・多様な観光地があり（宝塚大劇場・甲子園球場など）、臨海部や基幹道路、空港周辺には工業団地や物流施設が集積している。
・鉄道インフラが充実しており京阪神や空港へのアクセスが良いので、都市部流出を抑制し、地域の活性化の一翼を担っている。

2050年にめざしたい姿

●いつも誰かが訪れるにぎわいのあるまち

・いつも誰かが訪れるにぎわいのあるまちになる

・インバウンド客が増え、国内外から観光の注目地になる

・マイクロツーリズムの普及で交流人口が拡大する

【観光関係団体の声】
・（中国人のホテル利用者からは、尼崎はどこにいくにも便利であるという回答があったので）狭い地域の資源だけでは人を呼び込むにも限界があることを踏まえ、周辺スポットとの近接性や、この地域の場所などを、全国的に周知することが最優先であると考える。

現存する日本最古の酒蔵「旧岡田家住宅・酒蔵」

『「伊丹諸白」と「灘の生一本」　下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷』が日本遺産に認定（令和２年）

江戸時代、伊丹、西宮・灘の酒造家たちは、優れた技術、良質な米と水、酒輸送専用の樽廻船によって、「下り酒」と称賛された上質の酒を江戸へ届け、清酒のスタンダートを築きました。酒造家たちの技術革新への情熱は、伝統ある酒蔵としての矜持と進取の気風を生み、「阪神間」の文化を育みました。六甲山の風土と人に恵まれたこの地では、水を守り、米を育てる人々、祭りに集う人々、酒の香漂う酒造地帯を訪れ、蔵開きを楽しむ人々が共にあり、400年の伝統と革新の清酒が造られています。

シナリオ
16

4　にぎわいのあるまち
多彩な農と美味しい食

○　阪神地域の多様な「農」と「食」に関わる活動拠点をアトラクションとして、地域全体をテーマパークと見立てて、県民（消費者）と事業者（食関連事業者、観光業者など）、農業者が連携して事業を実施し、消費者や観光客の視点を意識しながら、都市・都市近郊農業の魅力アップを図るため、「阪神アグリパーク構想」を推進しています。
○　「メイド・イン阪神」の食材や清酒発祥の地として盛んに営まれてきた伝統の味がブランドとしてや確立し、地域がにぎわうことを目指します。

課　　題

●阪神地域こだわりの食材やブランドを維持する継承者が不足している

・働き方改革や定年延長により、都会から農業継承のために、U ターンする人も減少する傾向にある

・労働力の高齢化が進み、次世代の担い手が減少し、耕作放棄地が増加している

・人気の高い阪神間のスイーツ、数多い人気の飲食店で阪神産農産物や伝統の味を積極的に利用し、PRする必要がある

・産地直売市場への出荷量が十分にない

・昨今の気候変動が農作物の生産量に大きな影響を与える

【みんなの声】
・輸送技術の進化により、品質や鮮度の良い状態で地域外の農産物が量販店に並ぶ。阪神地域で作られた農産物が、既存の流通経路により、地域外へ出荷されることがあるため、地元農産物の認知度が低いように思う。

【農業団体の声】
・西宮や阪神南部地域では洋菓子などのブランド店も多く、全国区になっている。

将　来　へ　の　取　組

●農業希望者と農地を気軽に組み合わせる仕組み、農業やブランドが維持できる仕組みをつくる

・「農地を貸したい、借りたい」をサポートし、新規就農希望者や規模拡大を目指す農業者への情報提供を行う

・阪神産農作物を購入できる直売所で、地元農産物等を使った旬の料理の提案や紹介ができるイベントを開催し、情報発信する

・伝統の味や食品産業が維持できるよう、後継者の育成をする

・担い手不足や高齢化が進む中、農福連携に取り組むことで、障害者等の就労、自信や生きがいを創出する

【農業団体の声】
・農業を法人化して生育状況の把握や重機の管理をすることで農家の負担を減らし、他業種からの就農者や転作（米作りから野菜作り等）する人が持続可能になればいい。

・大きな冷蔵施設や集荷経路が確立することにより、集中管理ができるシステムができると、農業が続けやすくなる。

北摂栗

たみまるレモン

いちご

一寸そらまめ

三田牛

こまつな

酒米（山田錦）

2030 年頃の中間像

●阪神産食材の人気が高まり、産業としての就農希望者や後継者が増える

・新規就農者が増える

・阪神地域の魅力的なスポット、農畜林産物、人物の情報を簡単に得ることができ、価値を見いだすようになる

・生産量が確保され、学校給食や多くの店で阪神間食材を積極的に活用することができる

・「農業における労働力確保」や障害者の方の特性を踏まえた就労先の確保といった農業・福祉双方の課題解決につながってくる

【みんなの声】
・「阪神産食材の日」を設定し、学校給食やそれぞれの飲食店で献立を考えて提供すると、意識が高まり地域が元気になると思う。

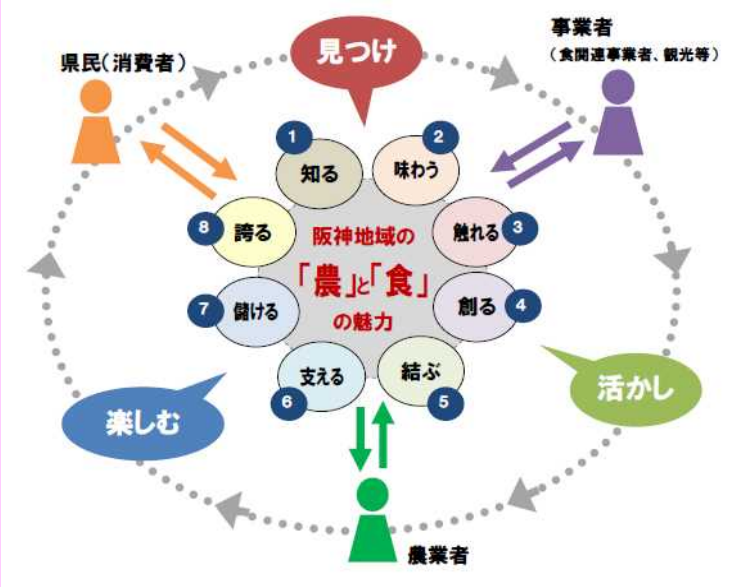
【三田市の生産者の声】
・地産地消で消費者に生産したものがすぐ届くというのが強み。休耕地や畑があるので、若い人達に農業に触れてもらい若手就農者をいかに増やすかということが課題である。

2050 年にめざしたい姿

●「メイド・イン阪神」の食材がブランドとして確立し、人気が高まる

・地産地消が当たり前になり、農業に興味を持ち、「やってみよう」と思う人が農業に参入し、稼げる産業になる

・「食のまち、阪神」として、他地域からの観光客が増え、各地で阪神産食材を使った料理やスイーツ、伝統の味を味わうことができる



シナリオ
17

4　にぎわいのあるまち
まちなかのにぎわいを創出する

○ 現在では、阪神地域の各市でも開催されるようになった「バル」はスペイン語で喫茶店、立ち飲み居酒屋など町の社交場をあらわす言葉です。
日本では北海道の「函館バル街」が発祥で、現在各地でバルが「まちおこしのイベントや商店の活性化」といった形で行われるようになりました。本州で、初めて開催したのは、伊丹市です。
○ 伝統的な祭りも各地にあり、身近にある神社、仏閣や地域の祭りなど、バルのようなイベントなどを通してまちなかににぎわいを創り出すことを目指します。

課　　題

●まちなかのオープンスペースや街路などが有効活用されていない

・商店街でも空き地、空き店舗が増え、まちの活力が損なわれている

・地元の祭りの担い手の減少により、祭りを存続させることが難しい

・西宮神社、門戸厄神東光寺、廣田神社、清荒神清澄寺、中山寺は観光客が多く訪れるが、近隣にはまだよく知られていない神社がある

・薪能、十日戎、尼崎市民まつり、西宮酒蔵ルネッサンス、芦屋市民ギャラリーや宮前まつり、川西市源氏祭り三田農業まつり、いながわまつりなどがあり、市民で賑わっている

・まちなかのオープンスペースや街路などが有効活用されていない

・今までに各地でバルが開催されてきた
- ✓ 塚口バル（阪急塚口駅周辺）
- ✓ 芦屋バル（JR.芦屋駅）
- ✓ 西宮あっちこっちバル（西宮市内）
- ✓ 伊丹まちなかバル（伊丹市内）
- ✓ 宝塚バル（宝塚市内）
- ✓ 川西バル（川西市内）
- ✓ 三田バル（三田市内）

将　来　へ　の　取　組

●まちなかバルを発展させる

・試験的に空き店舗を利用するプロジェクトなどを行い、空き店舗の利用を促進する

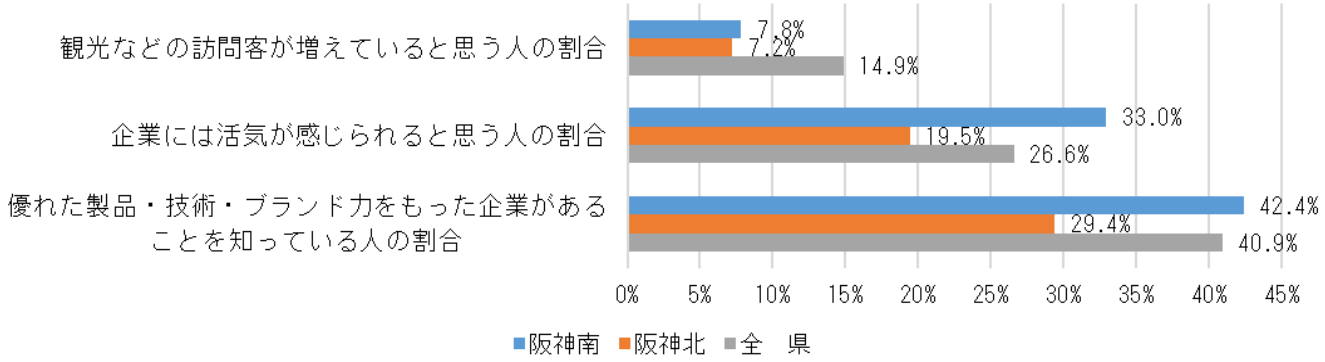
・コミュニティへの転入者も地元の祭りに携われるようルールやしきたりを変更する

・地域のすべての世代が集える「祭り」の活性化に取り組む

・より多くの地域で地元の食材や飲料を提供するような、まちなかバルを展開する

【川西市芸術団体の声】
・川西市にある歴史・文化的価値のある資源（多田神社、万願寺、石切山等）数多くあるが、より身近に感じられるように活用の仕方を工夫する必要がある。
・源氏祭りをはじめとした川西市内のイベントや歴史・文化資源を単独で考えるのではなくつなぎ合わせて、ストーリー性を持たせることで、さらなる付加価値をつけ魅力を高める。

令和３年度「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査



2030 年頃の中間像

●人材の交流が進み意欲ある活用で発展する

・すべての世代が集える祭りが活性化される

・道路や公園等のオープンスペースを活用するしくみができる

【中間支援 NPO 法人の声】
・「自助・共助・公助」があるが、「共助」の弾力性が強い地域が生き残る。今までボランティアで支えてきたとすれば、今後はビジネス的な方法、持続可能性のある手法で共助の形を作っていくことが大切である。

【川西市芸術団体の声】
・世代別のニーズに合ったイベントの開催、おしゃれなマルシェや朝市、夜市などを開催し、川西市内商店街の活性化を積極的に進める。
・清和源氏のつながりがある市町村間と様々なイベントをコラボして、歴史文化の展示等についても繋がりある市町村間と連携し歴史の理解を深める。

【三田市で三田バルを運営する人の声】
・本業は飲食業ではないが、三田バルの実行委員として駅前で「三田バル」を 10 年やってきた。三田市の発展のため、三田市を知ってもらうため、頑張っていきたいと思う。

2050 年にめざしたい姿

●発展した阪神がにぎわい、交流やイベントなどが継続されている

・すべての世代が祭りで集い、交流している

・空地・空き家をリノベーションや再整備で活用した賑わいや交流の拠点が生まれている

・公共のオープンスペースが柔軟に活用されて人が集まる、楽しむしかけが拡がっている

【『ITAMIGREENJAM』の声】
・個々のスキルを活かす場を最大限のプラットホームで用意する。
・『ITAMIGREENJAM』のイベント関係者は現在千人以上であるが、スタート時は 15 人くらいの実行委員会だった。昆陽池自治会で説明会を開き、周辺住民の理解を得た。お互いに理解してもらっている人に仲介してもらった。
・『ITAMIGREENJAM』は、表現と活躍のプラットホーム。場所と資金と集客は『ITAMIGREENJAM』が行い、あとはおまかせである。場所と市民・団体をマッチングする。

シナリオ
18

4　にぎわいのあるまち
みんなで楽しむスポーツ

○ 阪神地域には甲子園球場や複合スポーツ施設「尼崎スポーツの森」、芦屋浜にビーチバレーコートなどの施設があり、子ども向けのスポーツ教室も開催されるなど、スポーツに親しむ機会、場所ともは少なくありません。
○ 甲子園球場の高校野球やプロ野球の観戦者数は年間およそ 400 万人を数え、アメリカンフットボールの「甲子園ボウル」も開催されています。また、阪神競馬場、園田競馬場、尼崎競艇などは、その“速さ”でファンを魅了し、観戦するスポーツも熱を帯びています。

課　　題

●スポーツを楽しむコミュニティが活発ではない

・甲子園球場は、高校野球の聖地として、プロ野球チームのホームグラウンドとして、多くのファンを集めている

・プロバスケットボールチーム（西宮ストークス、Ｂリーグ）、プロ野球チーム（神戸三田ブレイバーズ、さわかみ関西独立リーグ）があるが、その活動状況があまり知られていない。

・世代や障害を超えて一緒に楽しめる活動が不足している

・戸外で遊ぶ仲間（友達）や機会が少ないためスポーツ離れが加速し、子どもの体力が低下している

・県民それぞれの体力や年齢に応じて、いつでもどこでも楽しむことができる生涯スポーツを普及させる必要がある

・里山でのスポーツ活動への関心の高まっている

【川西市で活動するサイクリングチームの方の声】
・サイクルマップはあるが、スポーツサイクルを借りることができる場所（サイクルステーション）がないので、手軽に始められない。

将　来　へ　の　取　組

●スポーツ人口を拡大する

・スポーツ教室の開催など、身近な場でスポーツ体験機会が提供される

・プロバスケットボールチームやプロ野球チームの活動を支持し、バスケットや野球の愛好者を増やす

・競技力の向上やトップアスリートの育成・強化が図られる

・阪神間でスポーツ観戦が盛んになる

・密を回避した自然を体感するサイクルスポーツや里山スポーツ、登山が盛んになる

【川西市で活動するサイクリングチームの方の声】
・北摂地域に関してサイクリング目線では、自然が豊かである。交通量が少なく適度なアップダウンがある。
・県内では播磨中央公園にサイクルステーションができるようだが、1か所だけは意味がない。県民局エリア毎に1か所は整備が必要。
・自転車を通勤に使う人が増加したが、活用できるサイクルロードが少ない。

阪神甲子園球場（西宮市）

【芦屋ロックガーデン】

六甲山系を上る無数のルートの中でも、奇岩群を超えながら上るロックガーデンは1年を通して多くの登山客でにぎわう人気のルートです。

朝日新聞の新聞記者をしながら、登山家として活動した藤木九三氏が住宅地から近いこの場所でロッククライミングを始め、日本におけるロッククライミング発祥の地として知られています。

2030 年頃の中間像

●スポーツへの関心が深まり、多様なスポーツを楽しむ

・世代や障害を超えて楽しむ e スポーツへの理解が進む

・スポーツ観戦などスポーツを楽しむコミュニティが増加する

・障害者スポーツへの参加機会が拡大する

・オリンピックや世界の第一線で活躍するアスリートが誕生する

・サイクルスポーツやトレイルランが里山スポーツで人気になる

【スポーツ団体の声】

・スポーツと文化の融合領域があって地域が元気になる。ダンス、スケートボード、BMXなど、騒音の問題もあるが伸ばしていきたい。

2050 年にめざしたい姿

●自主的なスポーツ活動が拡がり、阪神間でスポーツが生活の一部になる

・世代や障害を超えて e スポーツの愛好者が増えている

・第一線で活躍するスポーツ選手が地域の人に教える機会が定期的にある

・大学、企業と連携し、人材交流や施設開放などを進める

・阪神地域のスポーツ人口が増え、高校野球の「甲子園」、ラクビーの「花園」のようにスポーツの地域として有名になる

・地域住民が日常的にスポーツを行える場として、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるようになる